

中国太郎の発掘日記

島根県埋蔵文化財調査センター

松江市打出町33

TEL0852-36-8608



12月に入ってめっきり寒くなってきましたが、みなさまお元気でお過ごしでしょうか。

さて、島根県埋蔵文化財調査センターでは、今年度も江の川河川改修事業に伴う発掘調査を行ってきましたが、地元のみなさまや関係機関のご協力により、調査を無事に終えることができました。

今年度の調査では、江の川沿岸の歴史や土地の利用を解明する上で興味深い発見がありました。

江の川河川改修にともなう発掘調査は来年度以降も実施していく予定です。今後の調査成果にご期待ください。

それではみなさま良い年をお迎えください！

発掘体験と現地公開を開催しました

11月上旬には発掘体験と現地公開を開催しました。

発掘体験は江津市立高角小学校の6年生のみなさんが参加してくれました。スコップを手に持ち、土中に眠る土器や石器を一生懸命探していました。体験終了後には「将来遺跡発掘の仕事をしたい」という児童もいました。体験をとおして市内の歴史や文化財に愛着をもつきっかけとなれば幸いです。

現地公開は地元のみなさんを中心に30名ほどの方に来ていただきました。発掘調査で確認した昔の江の川の自然堤防や、農業用水などのために河川に堰をつくった様子を現地で見てもらいました。また、調査によって出土した遺物の紹介・解説をさせていただきました。参加していただいた地元の方から、「神田川」という字名の由来について教えていただくなど、新たな知見も得ることができました。

発掘体験や現地公開に参加していただいたみなさまありがとうございました。来年度以降も発掘体験や現地公開を実施する予定です。ご参加をお待ちしております！



・発掘体験の様子
大きな土器片を見つけて盛り上がっていました。



・11月4日の現地公開の様子
江の川の昔の自然堤防が確認できました。

森原神田川（もりばらじんてがわ）遺跡

○所在地：江津市松川町太田

○調査期間：5月～11月末

遺跡は江の川の右岸沿いにあります。現在の地表面から1.5mほど掘り下げたところで、戦国時代から江戸時代初め（16世紀から17世紀頃）を中心とする時期に機能した河川（自然流路）や堰（せき）が確認されました。

自然流路は江の川に向かって流れており、山間から流れる河川や周辺の耕作地への流路として機能していたことがうかがえます。検出した自然流路には内部に石が積まれたものも見つかっています。石積により流路をふさいで堰を設け、水量を調節していたことが考えられます。

自然流路が見つかったところからさらに深く掘り進めると、古墳時代から奈良時代（1500年前から1200年前）の江の川の自然堤防を確認しました。

自然堤防は硬い粘土層によって覆われていましたが、この粘土層のすぐ上から大量の土器や石器が出土しました。出土した遺物には移動式竈（かまど）や甑（こしき）といった炊飯の道具、ミニチュア土器、高坏などの土器が多く含まれるほか、勾玉の模造品なども出土しています。これらの出土品から、人が居住する日常生活空間とは異なり、遺跡周辺にマツリ（祭祀）を行う空間があることがうかがえます。

江の川の自然堤防上で飲食をともしする祭祀が行われていた可能性があります。

今回の調査は、江の川沿いの歴史や土地の活用方法を考える上で貴重な成果となりました。



・調査地点と江の川
自然堤防が江の川の蛇行地点と直線的に位置しています。



・近世の自然流路 数本の流路が合流しています。



・流路内に石積を設け、堰(せき)としています。
耕作地へ水を流すため水量を調節したと考えられます。



・検出した江の川の自然堤防



・調査で出土した遺物
縄文時代～奈良時代の土器・石器

